

図6 スペインの自治州別出生率と出産年齢の推移

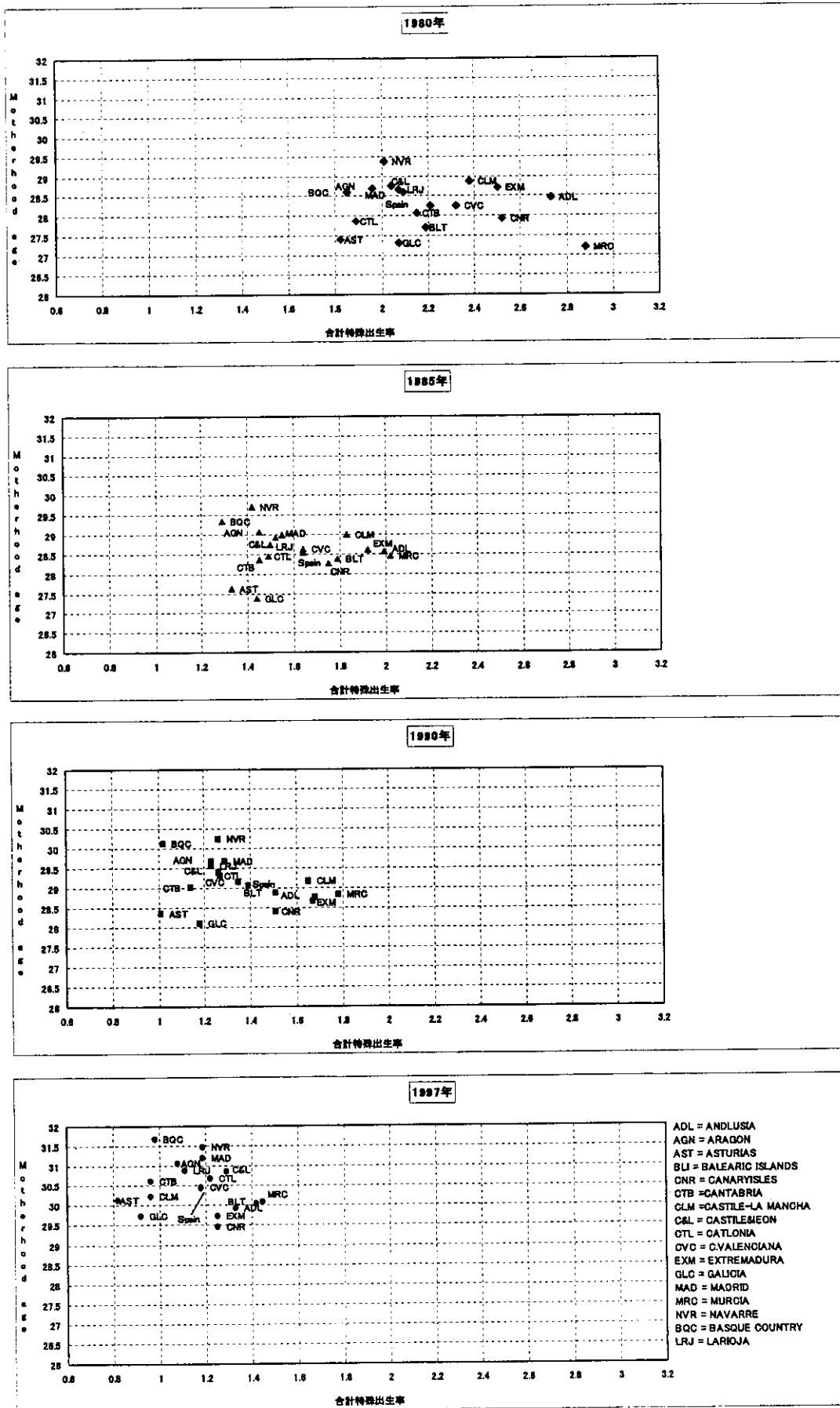


図7 スペインの自治州別出生率と婚姻年齢の推移

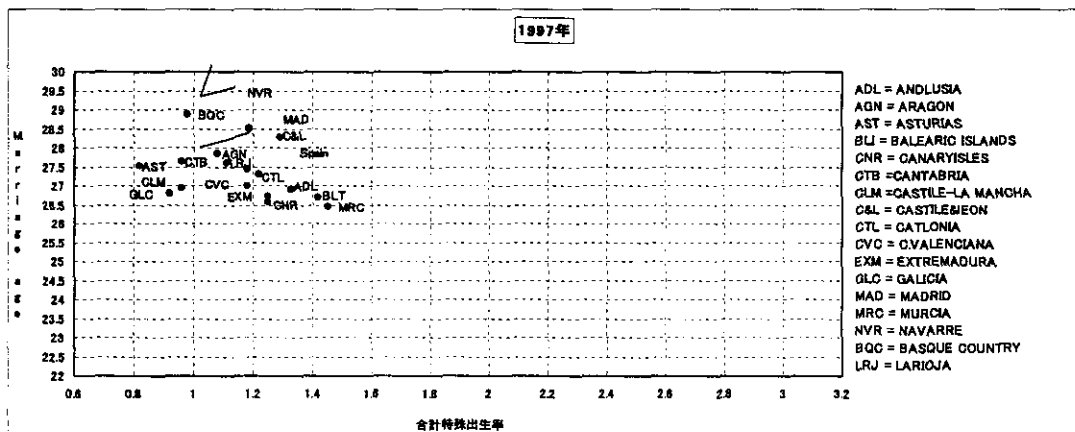
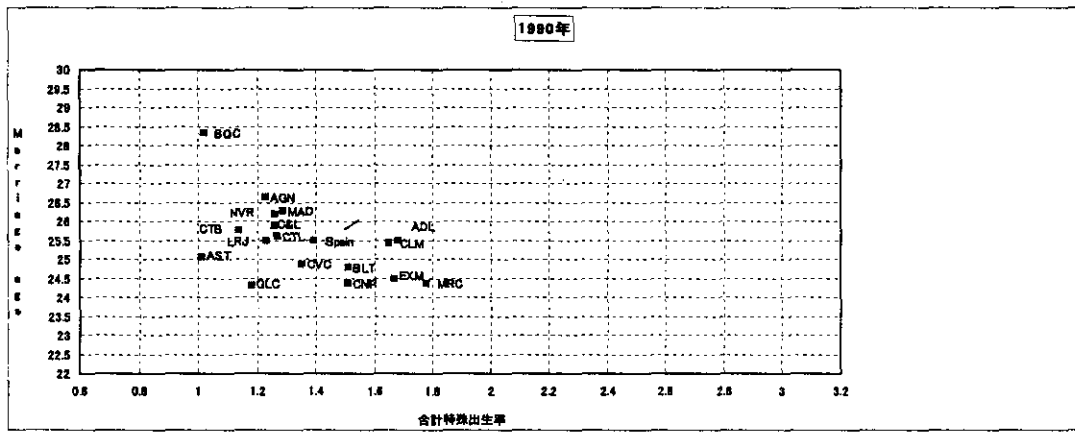
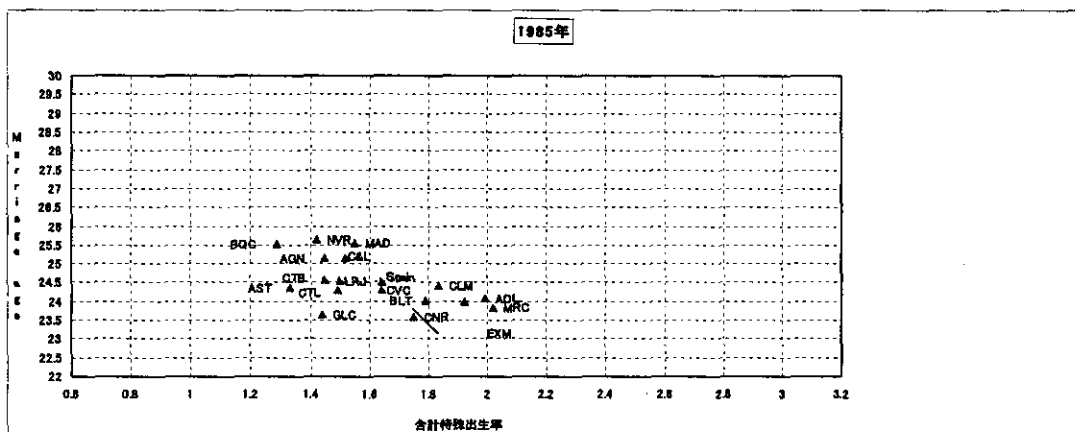
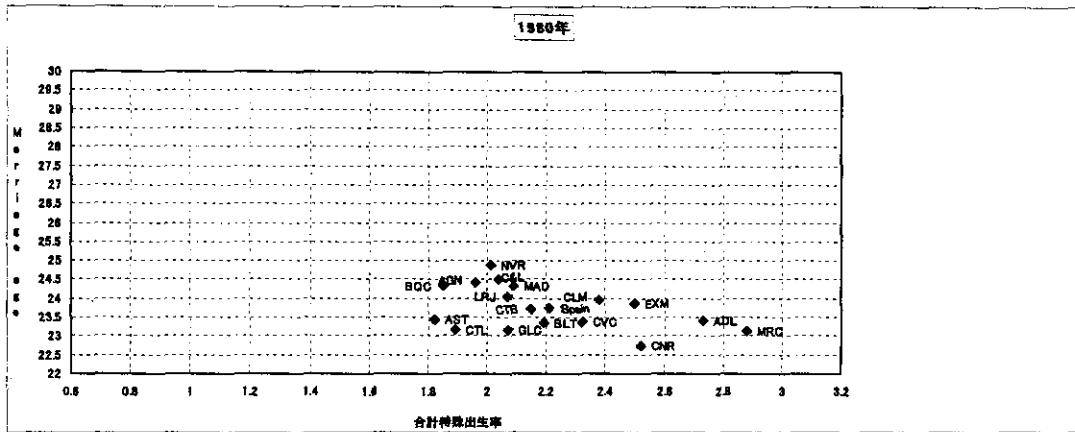


表1 南ヨーロッパ各政府の出生率に対する認識

国名	1976		1978		1986		1990		1993		1996	
	政策	認識	政策	認識	政策	認識	政策	認識	政策	認識	政策	認識
Albania	→	○	→	○	→	○	→	○	→	○	→	○
Andorra	—	—	—	—	—	—	—	—	x	○	x	○
Bosnia & Herzegovina	—	—	—	—	—	—	—	—	→	○	—	—
Croatia	—	—	—	—	—	—	—	—	→	○	↑	low
Greece	↑	low	↑	low	↑	low	↑	low	↑	low	↑	low
Holy See	x	○	x	○	x	○	x	○	x	○	x	○
Italy	x	○	x	○	x	○	↑	low	↑	low	x	○
Malta	x	○	x	○	x	○	x	○	x	○	x	○
Portugal	x	○	x	○	x	○	x	○	x	○	x	low
San Marino	x	○	x	○	x	○	x	○	x	○	x	○
Spain	x	○	x	○	x	○	x	○	x	○	x	○
Yugoslavia	—	—	→	○	—	—	→	○	→	○	→	○
出典	National Population Policies 1998, UN.		World Population Trends and Policies 1979, UN vol.2 pp101		National Population Policies 1998, UN.		World Population Monitoring 1991, UN pp95-96		World Population Monitoring 1993, UN pp115		National Population Policies 1998, UN.	

凡例

政策(↑...増加、↓...低下、→...維持、×...不介入)  
 認識(○...満足、high...too high、low...too low)  
 その他(—...該当なし)

\* The former State of Czechoslovakia was dissolved and became the independent States of the Czech Republic and Slovakia on 1 January 1993.

\*\*Through accession of the German Democratic Republic to the Federal Republic of Germany with Effect from 3 October 1990.

表2 南ヨーロッパ諸国の家族関連施策—主に出産・子育てに関わる休暇（1995年時点）

国名	出産休暇	父親休暇	育児休暇	病児看護・家族的理由休暇
イタリア	5ヶ月／給80% (2ヶ月は産前) 授乳時間有り	無し	6ヶ月／家族・給30% 重度障害児では3歳まで延長	3歳以下の子の病気のため無給の休暇が取れる
スペイン	16週／給75% さらに9ヶ月1h 時短可能	2日／給100% 妻の産休の後半4週を譲受可能	36ヶ月／家族・無給 6歳まで労働時間短縮が可能／無給	子どもの病気の始め2日は有給で休める／個人
ポルトガル	90日／給100% (60日は産後) 授乳時間有り	無し	6～24ヶ月／家族・無給	10歳以下の子の病気のため年に20日／家族・無給 ただし、公務員や一人親には給付有り
ギリシャ	14週／給100% (3週は産前)	無し	子が2歳半になるまでに全日型で3ヶ月／個人・無給 (一人親では倍の期間)	16歳以下の子の病気のため年に6～10日／家族・無給

資料：

European Commission Network on Childcare and other Measures to Reconcile Employment and Family Responsibilities, 1994, *Leave Arrangements for Workers with Children*, European Commission Directorate-General V Equal Opportunities Unit.  
*Equal Opportunities for Women and Men in the European Union Annual Report 1996, 1997*, European Commission Directorate-General V Equal Opportunities Unit.  
*Le Statut et le rôle du Père — Aspects de la Politique Familiale —: Conférence des Ministères Européens Responsables des Affaires Familiales, 1995*, Conseil de l'Europe.

## 国別研究:ポルトガル

石田 信義

1. 人口の動向
2. 社会保障制度の沿革と現政権の政策方針
  - 1) 社会保障の実績
  - 2) 社会保障制度の沿革
    - (1) 1933年憲法と国民労働規約
    - (2) 1960年代の体制揺籃期
    - (3) 1970年代における新政権への移行
    - (4) 1980年代
    - (5) 1990年代
  - 3) 現在の政権の特徴と政策方針
    - (1) 社会保障制度と家族支援政策・家族政策の歴史的背景
    - (2) 政策の方針
3. 家族手当に関する諸制度
  - 1) 家族手当支給
  - 2) 家族関係に影響を及ぼす立法の特徴と変遷
    - (1) ポルトガルにおける女性の地位
    - (2) 女性労働者の権利について
  - 3) 保育サービス

### 資料・文献

- 1) 保育システム・教育
- 2) 賃金資料
- 3) 雇用政策
- 4) 女性雇用
- 5) 社会分析論考
- 6) その他

# 1. 人口の動向

## 1) 概況

(人口)

1998年12月31日現在、ポルトガルの居住人口は9,979,450人で、1991年～98年の年間平均増加率0.165%を上回って、年平均増加率0.22%を示した。自然増加率及び移住増加率はそれぞれ0.07%及び0.15%である。自然増加率の低下、幼児死亡率の低下、平均寿命の上昇及び1993年以降の移民流入傾向の変化は、ポルトガルの人口動向を特徴づける諸要因となっている。

合計特殊出生率は、1981年の2.1人以来、低率を維持している。幼児死亡率は低下の傾向をみせ、1998年には、6.0‰を示すに至った。この低下の要因としては、胎児死亡率の低下が主な要因となっている。人口の高齢化は恒常的に進んでおり、1998年には、人口の15%が65歳以上の人口層で、合計で150万人を占めている。ヨーロッパはポルトガルにとって主要な移民先の地域となっており、全移民者の85%はヨーロッパ向けである。また、ヨーロッパからのポルトガルへの移民も増加しており、ポルトガルにおける1998年の外国籍人口は全体の16%を占めた。しかしながら、アフリカ出自の人口は全外国籍人口のほぼ半数を占めている(1998年において46%)。

(表1)「ポルトガルの人口動向 1981～1998年」

	1981	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
居住人口(年央)	9,851,460	9,871,190	9,867,030	9,880,670	9,902,160	9,916,450	9,927,440	9,945,690	9,968,360
居住人口 (12月31日)	9,883,940	9,864,890	9,869,170	9,892,160	9,912,140	9,920,760	9,934,110	9,957,270	9,979,450
男性比率(a)	93.0	93.1	93.0	92.9	92.9	92.9	92.9	92.9	92.9
新生児	152,060	116,290	114,910	113,950	109,210	107,090	110,240	112,930	113,380
死亡	95,730	103,880	100,640	105,950	99,230	103,470	106,890	104,780	106,200
自然増減	56,330	12,410	14,270	8,000	9,980	3,620	3,350	8,160	7,180
移民増減	8,630	-25,000	-10,000	15,000	10,000	5,000	10,000	15,000	15,000
人口増加	64,960	-12,590	4,270	23,000	19,980	8,620	13,350	23,160	22,180
出生率(‰)	15.4	11.8	11.6	11.5	11.0	10.8	11.1	11.4	11.4
死亡率(‰)	9.7	10.5	10.2	10.7	10.0	10.4	10.8	10.5	10.7
幼児死亡率(‰)	21.8	10.8	9.2	8.6	7.9	7.4	6.9	6.4	6.0
自然増加率(%)	0.57	0.13	0.14	0.08	0.10	0.04	0.03	0.08	0.07
移住増加率(%)	0.09	-0.25	-0.10	0.15	0.10	0.05	0.10	0.15	0.15
実質増加率(%)	0.66	-0.12	0.04	0.23	0.20	0.09	0.13	0.23	0.22
非嫡出新生児(%)	9.5	15.6	16.1	16.9	17.8	18.7	18.7	19.6	20.1
寿命(歳)									
男性	68.2	70.5	70.6	70.8	71.2	71.5	71.3	71.4	71.7
女性	75.2	77.5	77.8	78.0	78.2	78.6	78.6	78.7	78.8

注(a) 男性÷女性(%)

出典) INE - Instituto Nacional de Estatística, Estimativas de População Residente 1998, Série Estimativas Provisórias N° 28

(表2)「出生率年齢別内訳 1981~1998年」

年	1981	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
出生率 Taxas de Fecundidade(‰)									
15-19歳	39.6	23.5	22.6	22.5	21.2	20.5	20.9	21.3	21.2
20-24歳	133.6	85.2	79.5	75.3	68.4	62.9	61.9	61.7	59.8
25-29歳	127.4	110.0	109.7	106.2	101.1	97.2	97.7	97.7	94.6
30-34歳	74.7	65.1	67.2	69.2	67.8	69.8	74.3	77.1	80.3
35-39歳	35.3	24.3	24.0	24.4	24.4	25.1	27.1	29.1	31.1
40-44歳	13.5	5.7	5.6	5.4	5.3	5.3	5.3	5.6	5.5
45-49歳	1.7	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3
15-49歳	72.8	46.6	45.7	44.9	42.8	41.8	42.9	43.8	44.0
合計特殊出生率 Índice Sintético de Fecundidade									
	2.129	1.572	1.542	1.517	1.433	1.406	1.438	1.464	1.464
総再生産率 Taxa Bruta de Reprodução									
	1.039	0.767	0.753	0.741	0.704	0.686	0.702	0.714	0.715
純再生産率 Taxa Líquida de Reprodução									
	1.002	0.751	0.737	0.727	0.691	0.673	0.689	0.695	0.703

出典) INE, Gabinete de Estudos / Área Demográfica e Social, 1999年資料

#### (出生率低下の要因)

関係諸機関(p.55~56)での聴き取り調査によれば、出生率低下の要因に関しては以下のように要約される。

##### 1)女性の労働市場参入

##### 2)女性の高学歴化

##### 3)企業における人材の需要と雇用慣行:

1.新規の若手労働者の長時間労働の求め、または

2.経験豊富で有能な専門家を求める

女性の専門能力向上のために時間を要することは、就職時における高年齢と婚姻の高齢化ならびに出生の高齢化を必然的にもたらしている。企業はまた、可能な限り上の2点での雇用を求め、女性が出産や育児で休職すると再び職場に復帰することが困難な状況になりやすい。女性に関する雇用についても、銀行業務には男性のみ雇用するといった慣行が現存している。

##### 4)住宅費用の負担

若年層が結婚を決意しても、夫婦で居住する家屋の確保が困難である。都市部の賃貸家屋は、家屋内の部屋数が少ないという問題、及び所有主の家屋のメンテナンス費用が不十分のため新婚夫婦にはあまり適さない。新たに家屋を確保するためには都市郊外に移る必要がある。そのために都市部の職場への通勤時間がかかり、労働する主婦が家事や育児に費やす時間的余裕なくなる。

##### 5)教育費

育児に関しては、民間の保育サービスと公共の保育サービスがあるが、前者に関しては教育費が高く、また後者に関しては個人の費用負担が少ない一方で、子どもに関わる教員数が少なく、また子どもをその施設に預けている時間数が少ないという不便な点もある(後述保育サービスの項参照)。

2)一般指標

(家族)

家族構成は長期的にみれば変化をみせてきている。伝統的な家族構成(有子夫婦)が多数を占めてはいるが、他のカテゴリー、なかでも、1人親家族(monoparental)及び独居家族(unipessoal)が大きく増加してきている。非嫡出子の出世数は増加し、1998年において、出生児100人当たり20人が非嫡出子にあたる。婚姻率は1998年において6.7‰と、あまり変わりをみせなかったが、1990年に比較すると(7.2‰)最も低率を示しており、一方、離婚率はこれと対照的に大きな増加の傾向を示しており、1990年の0.9‰が1995年に1.2‰、そして1998年には1.5‰に達している。

(表3)「世帯人数」単位:人

	1995	1996	1997
世帯数	3,296,090	3,363,546	3,416,699
1人	4,55,589	498,616	542,960
2人	875,318	914,251	955,380
3人	811,882	828,728	820,340
4人	748,059	729,849	707,334
5人	263,520	261,333	254,764
6人以上	141,720	130,768	135,921

出典)INE, Indicadores Sociais 1998

(表4)「子ども数別世帯数」単位:人

	1995	1996	1997
世帯数	3,296,090	3,363,546	3,416,699
有子世帯	2,012,077	1,993,021	1,960,759
子ども1人	962,591	976,566	977,311
子ども2人	777,851	749,458	728,032
子ども3人	196,727	196,814	183,183
子ども4人	52,035	50,918	50,534
子ども5人	19,919	16,555	18,928
子ども6人以上	2,954	2,710	2,771

出典)INE, Indicadores Sociais 1998

(表5)「1人親世帯 地域別分布 (NUTS II)」単位:人

	1995	1996	1997
Portugal	315,715	330,595	339,673
Continente	296,948	309,753	319,063
Norte	117,550	127,877	133,019
Centro	48,136	46,775	47,263
Lisboa e V. do Tejo	106,395	111,105	113,411
Alentejo	14,840	12,688	13,411
Algarve	10,026	11,308	11,843
R. A. Açores	7,272	7,831	8,034
R. A. Madeira	11,495	13,010	12,577

出典)INE, Indicadores Sociais 1998



(表6)「性別結婚平均年齢」

	1995	1996	1997	1998
初婚年齢 男性	26.8	27.0	27.1	27.2
女性	24.9	25.1	25.3	25.4
結婚年齢 男性	28.6	28.8	28.9	29.0
女性	25.9	26.2	26.4	26.5

出典)INE, Indicadores Sociais 1998

(表7)「女性の出産平均年齢」

	1995	1996	1997	1998
第1子	25.6	25.8	25.9	26.1
1人の子ども	27.8	28.0	28.1	28.3

出典)INE, Indicadores Sociais 1998

(表8)「婚姻・離婚等」

	1980	1985	1990	1998
妊婦死亡率 (100,000人に対し)	19.6	10.7	10.3	*5.4
婚姻率(‰)	7.3	6.7	7.3	6.7
離婚率(‰)	0.6	0.8	0.9	1.5
教会婚	72,164	68,461	71,654	66,598
離婚による婚姻の解除	5,874	8,988	9,216	15,278
別居による婚姻関係の中止	70	160	183	325

注)\* 1996

出典)INE - Direcção-Geral da Saúde, Estatísticas Demográficas Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres - Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999, 2000

(教育)

1990年に15～65歳の人口のわずか12.4%が中等及び高等教育水準であったものが、この人口は1997年には22%まで上昇した。1998年、150万人以上の青少年が義務教育を就学した。女性の高等教育就学者が大きく増加する一方で、男女差が縮小の傾向を示す。

(表9)「15歳以上の教育水準」

教育水準	男性	女性	合計	女性の率(%)
教育を受けていない	12.9	23.7	18.6	67.0
基本教育	71.5	59.2	65.1	47.8
第1ciclo	36.4	32.0	34.1	49.2
第2ciclo	19.2	14.5	16.7	45.4
第3ciclo	15.9	12.7	14.3	47.1
中等教育	10.4	10.3	10.3	52.1
高等教育	5.2	6.8	6.0	58.9
学士	1.1	2.5	1.8	70.4
学士と博士の間	3.7	4.1	3.9	55.3
大学院	0.4	0.2	0.3	36.1
総計	100.0	100.0	100.0	52.5

出典) INE, Inquérito ao Emprego (média anual, 1998)

Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres - Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999, 2000

(表10)「女性の就学比率」

教育レベル	女性の占める割合
幼児期	48.6
初等教育	48.3
1ciclo	48.1
2ciclo	47.1
3ciclo	49.4
中等教育	51.9
高等教育	56.9

出典) Estatísticas da Educação 1996/97 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres - Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999, 2000

(表11)「婚姻以前の身分」

婚姻以前の状態	女性	%	男性	%
独身	61,986	93.1	60,361	90.6
死別	663	1.0	1,103	1.7
離婚	3,949	5.9	5,134	7.7
総計	66,598	100.0	66,598	100.0

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1998

(表 12)「初婚の年齢区分—教会婚—1998 年」

年齢区分	数	%
17 歳以下	676	1.1
17～19 歳	7,275	11.7
20～24 歳	26,026	42.0
25～29 歳	19,727	31.8
30～39 歳	6,611	10.7
40～49 歳	1,024	1.7
50 歳以上	647	1.0
総計	61,986	100.0

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres – Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 13)「離婚形態—1998 年」

形態	離婚数	%
同意の上	12,717	83.2
裁判調停	2,529	16.6
民法 第 1779 号	2,005	13.1
民法 第 1781 号-A	460	3.0
民法 第 1781 号-B	63	0.4
民法 第 1781 号-C	1	0.0
離婚のための別居	32	0.2
離婚総計	15,278	100.0

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres – Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 14)「離婚時の有子状況—1998 年」

離婚時の子どもの数	離婚数	%
子どもがいない	4,948	32.4
子どもがいる	10,330	66.6
1 人	6,031	39.5
2 人	3,334	21.8
3 人	690	4.5
4 人以上	275	1.8
離婚総計	15,278	100.0

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres – Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 15)「離婚に至るまでの婚姻期間—1998 年」

婚姻期間	離婚数	%
3年未満	325	2.1
3～5年	2,786	18.2
6～9年	3,127	20.5
10～14年	2,835	18.6
15～19年	2,267	14.8
20年以上	3,938	25.8
離婚総計	15,278	100.0

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres —Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 16)「離婚時の女性年齢—1998 年」

離婚時の女性年齢	離婚数	%
25歳未満	976	6.4
25～29歳	2,603	17.0
30～39歳	6,004	39.3
40～49歳	3,587	23.5
50～59歳	1,443	9.4
60歳以上	665	4.4
離婚総計	15,278	100.0

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres —Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 17)「離婚時の母親の就労状況—1998 年」

母親の労働状況	離婚数	%
就労者	11,054	72.3
失業者	2,242	14.7
就職活動中	1,34	6.8
再就職活動中	1,208	7.9
無職	1,982	13.0
離婚総計	15,278	100.0

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres —Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 18)「離婚した女性の教育水準—1998 年」

離婚女性の教育レベル	離婚数	%
読み書き不能	87	0.6
未就学で字が読める	482	3.2
基礎教育	8,522	55.7
中等教育	4,807	31.5
高等教育	1,380	9.0
離婚総計	15,278	100.0

出典) INE, Estatísticas Demograficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres —Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 19)「第1子出産時の母親の年齢—1998 年」

母親の年齢	子どもの数
15 歳未満	94
15~16 歳	957
17~19 歳	5,622
20~24 歳	18,527
25~29 歳	21,948
30~39 歳	11,977
40~49 歳	370
50 歳以上	2
第 1 子の総計	59,497

出典) INE, Estatísticas Demograficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres —Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 20)「20歳未満の母親の教育水準—1998 年」

教育レベル	数	%
読み書き不能	164	2.2
未就学で字が読める	104	1.4
基礎教育—第 1ciclo	1,595	21.6
第 2ciclo	2,727	36.8
第 3ciclo	2,020	27.3
中等教育	793	10.7
20 歳未満の母親の総計	7,403	100.0

出典) INE, Estatísticas Demograficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres —Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 21)「20歳未満の母親の就労状況－1998年」

就労状況	数	%
就労	1,946	26.3
失業中	553	7.4
就職活動中(初回)	231	3.1
再就職活動中	322	4.3
何もしていない	4,904	66.3
20歳未満の母親の合計	7,403	100.0

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres – Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

(表 22)「家族計画のための避妊方法－1998年」

方法	1993(%)	1997(%)
ピル	52.3	62.3
DIU	10.0	9.7
Hormonal	0.6	0.5
避妊具	9.3	14.6
Espermicidas	0.9	2.1
自然	2.7	3.1
性交中断	17.6	7.1
Laqueação	5.9	—
その他	0.6	0.5

出典) INE, Estatísticas Demográficas 1998 Comissão para a Igualdade e para os Direitos das Mulheres – Gabinete da Ministra para a Igualdade, Presidência do Conselho de Ministros, Portugal ; Situação das Mulheres 1999 , 2000

#### (雇用及び労働状況)

労働形態のフレキシビリティが顕著であり、永久(終身)雇用契約のない雇用、また不定期労働、例えば週末までの時間給労働などの雇用が増加している。また、パートタイム労働は依然増加している。高齢までの労働が年々増加しており、1995～1997年に、65歳以上の個人の稼働率が14.4%から16.1%へと上昇しており、特に女性の場合が顕著である。失業率は、1995年の7.1%から1997年の6.7%へと低下の傾向を示している。一方、地域別にみると、Alentejo 長期間にわたり失業率の高率を示し、これに対してCentroが最も低い失業率を示し

基準平均月収(Remuneração média de base e o ganho)は、1995～1997年において、それぞれ8.5%～9.3%へと上昇したが、1996年から1997年への上昇率は、1995年から1996年への伸びの半分に留まった。1995～1997年において、労働事故は5.8%増加し、製造業においては最も低率であった一方で、高率は建設業であった。

## (女性の就業状況)

(表 23)「一般指標—1998 年」

女性の就業率	43.6%
男性の就業率	57.0%
女性の失業率	6.2%
男性の失業率	3.9%
雇用における女性の比率	44.5%
失業における女性の比率	56.6%

出典) INE, Inquérito ao Emprego, 1998

(表 24)「女性の就業状態—1998 年」 単位:千人

有給の就業者	2,250.9
被雇用者	2,110.5
失業者	140.4
学生	890.5
家事	735.0
退職者	725.9
その他	565.9
合計	5,168.2

出典) INE, Inquérito ao Emprego, 1998

(表 25)「年齢層別経済活動率(%)—1998 年」

年齢層	女性	男性
15～24 歳	44.5	50.7
25～34 歳	80.5	92.9
35～44 歳	77.3	95.3
45～54 歳	65.8	91.0
55 歳以上	23.3	42.3
合計	43.6	57.0

出典) INE, Inquérito ao Emprego, 1998

(表 26)「職業状態—1998 年」

職業状態	女性		男性		女性の比率 (%)
	(千人)	%	(千人)	%	
従業員	1,531.6	72.6	1,854.7	70.5	45.2
自営業者で従業員なし	422.0	20.0	498.5	19.0	45.8
自営業者で従業員雇用	74.0	3.5	215.7	8.2	25.5
家事手伝い、その他	82.9	3.9	59.4	2.3	58.3
合計	2,110.5	100.0	2,628.3	100.0	44.5

出典) INE, Inquérito ao Emprego, 1998

(表 27)「性別職種分布—1998 年」

職業	女性 (千人)	%	男性 (千人)	%	女性の比率 (%)
行政官、最高業務執行官	109.1	5.2	229.6	8.7	32.2
知的、科学専門家	156.1	7.4	128.5	4.9	54.8
中間科学技術専門家	169.8	8.0	182.9	7.0	48.1
行政職員	248.0	11.7	174.8	6.7	58.7
サービス、販売スタッフ	386.1	18.3	239.1	9.1	61.8
農、漁業従事者	276.9	13.1	274.3	10.4	50.2
工業生産従事者、工芸	287.2	13.6	818.3	31.1	26.0
工業部門機械組立て工	96.1	4.6	317.2	12.1	23.3
非熟練労働者	379.6	18.0	229.6	8.7	62.3
軍役	1.6	0.1	34.0	1.3	4.5
合計	2,110.5	100.0	2,628.3	100.0	44.5

出典) INE, Inquérito ao Emprego, 1998

(表 28)「性別労働時間分布—1998 年」

労働時間	女性 (千人)	%	男性 (千人)	%	女性の比率 (%)
25 時間まで	319.9	15.2	125.1	4.8	71.9
26～35 時間	366.2	17.3	222.5	8.5	62.2
36～40 時間	964.1	45.7	1,389.5	52.8	41.0
41～45 時間	200.6	9.5	335.4	12.8	37.4
45 時間超	257.1	12.2	546.7	20.8	32.0
不明	2.7	0.1	9.1	0.3	22.9
合計	2,110.5	100.0	2,628.3	100.0	44.5

出典) INE, Inquérito ao Emprego, 1998

## (所得及び価格)

1994 年において、家計の純年間所得源の 74.5%は労働から出ており、内訳は、給与から 63.5%、個人所得が 11%であった。1994 年において、人口全体の 27%の貧困層が国民平均所得の3分の1未満の平均所得を得ていた(613 万 8,000 エスクード対 202 万 1,600 エスクード)。貧困ライン以下の状態にある個人の割合で最も高い層は「65 歳以上の独居個人」の家族形態であった。

(表 29)「国内総生産及び 1 人当たり国内総生産」

	1995	1996	1997
国内総生産( $10^6$ Esc.)	15,802,130	16,808,614	17,875,680
1 人当たり(Esc.)	1,593,526	1,692,010	1,797,329

出典) INE, Indicadores Sociais 1998



(表 30)「世帯当り可処分所得」

(金額単位:1,000 エスクード)

	1995	
	金額	%
Portugal	1,137	100
Norte	1,017	89
Centro	1,057	93
Lisboa e V.do Tejo	1,348	119
Alentejo	961	85
Algarve	1,161	102
R.A.Açores	920	81
R.A.Madeira	1,028	90

出典)INE, Indicadores Sociais 1998

(表 31-1)「出所別年間純益—世帯種別 —1994 年」

単位:エスクード

世帯	貨幣所得 (合計)	給与・俸給	自営労働収益
合計	2,021,588	1,284,703	222,486
65 歳以上単身	623,359	23,904	23,541
30 歳以上 65 歳未満単身	1,144,166	614,606	177,338
30 歳未満単身	1,156,107	1,127,827	—
16 歳以下の子どもがいる 1 人親世帯	1,107,228	608,276	206,987
17 歳以上の子どもがいる 1 人親世帯	1,860,892	1,168,185	100,277
子どものいない夫婦で、少なくとも一方が 66 歳以上	1,231,873	127,282	85,624
子どものいない夫婦で、2 人共 65 歳以下	1,944,261	1,203,714	137,215
16 歳以下の子どもが 1 人いる夫婦	2,323,915	1,919,368	267,606
16 歳以下の子どもが 2 人いる夫婦	2,431,692	1,909,877	398,811
16 歳以下の子ども 3 人以上いる夫婦	2,229,074	1,876,776	183,634
17 歳以上の子どもがいる夫婦	2,564,062	1,836,710	337,810
養子及び親族の世帯	2,589,588	1,537,370	259,151

出典)INE, Indicadores Sociais 1998

(表 31-2)「出所別年間純益—世帯種別 —1994 年」

単位:エスクード

世帯	労働を除く 個人所得	移転	
		社会	
			年金(退職、 遺族)
合計	61,713	455,913	352,254
65歳以上単身	75,798	500,117	483,722
30歳以上 65歳未満単身	45,810	320,071	251,943
30歳未満単身	12,512	15,768	—
16歳以下の子どものいる1人親世帯	6,824	259,177	73,960
17歳以上の子どものいる1人親世帯	61,242	531,189	396,391
子どものいない夫婦で、少なくとも一方が66歳以上	67,923	939,276	906,563
子どものいない夫婦で、2人共65歳以下	78,729	518,687	398,874
16歳以下の子どものいる1人夫婦	21,435	121,802	29,083
16歳以下の子どものいる2人夫婦	35,985	113,832	4,234
16歳以下の子どものいる3人以上夫婦	5,641	164,293	11,468
17歳以上の子どものいる夫婦	68,015	328,969	200,049
養子及び親族の世帯	85,730	707,337	555,654

出典) INE, Indicadores Sociais 1998

(表 32)「世帯種別年間純益の特徴 —1994 年」

単位:エスクード

世帯	平均所得	貧困ラインを下 回る世帯の平均 所得	貧困ラインを上 回る世帯の平均 所得	貧困状態に おける個人の 比率(%)
合計	2,021,588	613,799	2,537,785	26.83
65歳以上単身	623,359	349,389	991,148	57.31
30歳以上 65歳未満単身	1,144,166	296,472	1,543,136	32.00
30歳未満単身	1,156,107	200,000	1,310,061	13.87
16歳以下の子どものいる1人親世帯	1,107,228	542,239	1,496,718	40.81
17歳以上の子どものいる1人親世帯	1,860,892	620,157	2,401,196	30.34
子どものいない夫婦で、少なくとも一方が66歳以上	1,231,873	580,843	1,757,500	44.67
子どものいない夫婦で、2人共65歳以下	1,944,261	452,609	2,445,304	25.14
16歳以下の子どものいる1人夫婦	2,323,915	579,526	2,519,171	10.07
16歳以下の子どものいる2人夫婦	2,431,692	793,231	2,744,380	16.03
16歳以下の子どものいる3人以上夫婦	2,229,074	841,717	3,289,941	43.33
17歳以上の子どものいる夫婦	2,564,062	866,121	2,955,461	18.73
養子及び親族の世帯	2,589,588	849,667	3,026,601	20.07

注) 貧困ライン:成人平均所得の60%相当

## 2. 社会保障制度の沿革と現政権の政策方針

社会保障関連の制度的改革及び女性の社会進出及び機会均等を求める社会的趨勢は認められるが、その社会保障実績に関しては、他の EU 諸国に比較すると時間的な立ち後れがみられる。また、結婚・出産・育児に関する保障制度及び慣行は定着しておらず、将来的な少子化対策として機能している段階には無い。

### 1) 社会保障の実績

社会保障収支は1990年から7年間で総額で2倍以上の増加・対 GNP 比伸び

1990年代に入ってから社会保障収入は総額で1990年から1997年までの間に2.2倍の増加を示している。内訳をみれば、事業主負担は、1997年度は前年度よりも20%、被保険者負担は10%とそれぞれ増加を示したが、これに対し、公費負担は、6%増にとどまっている。90年代に入ってからの負担構成比をみれば、事業主負担構成比が1990年の33.3%から1997年の27.7%へ減少傾向をみせたが、公費負担は30.4%から41.8%へと増加しており、これが主要な収入源となっている。

(表 33)「社会保障収入 1990～1997 年」

単位:100 万エスクト)

年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
総額	1,816,663	2,188,297	2,651,379	2,910,571	3,159,804	3,535,705	3,873,737	4,064,804
割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
保険料合計	933,276	1,105,440	1,201,511	1,269,994	1,390,559	1,556,116	1,577,419	1,829,346
割合(%)	51.4	50.5	45.3	43.6	44.0	44.0	40.7	45.0
事業主	606,695	712,688	754,844	799,689	841,986	937,087	932,842	1,119,561
割合(%)	33.4	32.6	28.5	27.5	26.6	26.5	24.0	27.5
被保険者	326,581	392,752	446,667	470,305	548,573	619,029	644,577	709,785
割合(%)	18.0	17.9	16.8	16.2	17.4	17.5	16.6	17.5
公費負担	551,768	670,373	843,216	1,075,063	1,174,057	1,293,867	1,604,750	1,697,671
割合(%)	30.4	30.6	31.8	36.9	37.2	36.6	41.4	41.8
移転	182,015	217,130	248,615	149,241	151,087	253,824	121,420	145,656
割合(%)	10.0	9.9	9.4	15.1	4.8	7.2	3.1	3.6
その他の収入	149,604	195,354	358,037	416,273	444,101	431,898	570,148	392,131
割合(%)	8.2	8.9	13.5	14.3	14.0	12.2	14.7	9.6

出典) INE, Anuário Estatístico de Portugal 1998

INE, Estatísticas da Protecção Social, 1997

INE, Portugal Social, 1991/1995

(表 34)「社会保障収入内訳 1997 年」

(単位:100 万エスクード)

	合計	社会保障 制度(民間部門) ①	社会保障 制度(公共) ②	その他						
				SNS ③	事業主	IPSS ④	SCML ⑤	ASM ⑥	年金基金	その他
総額	4,064,804	2,033,362	723,153	739,609	172,985	140,520	19,786	21,714	101,839	111,838
割合(%)	100.0									
保険料合計	1,829,346									
割合(%)	45.0									
事業主	1,119,561	866,549	27,961		46,293				101,839	76,919
割合(%)	27.5									
被保険者	709,785	507,953	186,159		3,492			12,157		24
割合(%)	17.5									
公費負担	1,697,671	447,913	482,609	731,414	25,453					10,283
割合(%)	41.8									
移転	145,656	64,584				81,072				
割合(%)	3.6									
その他の収入	392,131	146,363	26,424	8,195	97,747	59,448	19,786	9,557		24,612
割合(%)	9.6									

注) ① Regimes de Segurança Social (Sector Privado)

② Regime de Segurança Social da Função Pública

③ Serviço Nacional de Saúde

④ Instituições Particulares de Solidariedade Social

⑤ Santa Casa da Misericórdia de Lisboa

⑥ Associações de Socorro Mútuos

出典) INE, Anuário Estatístico de Portugal 1998

INE, Estatísticas da Protecção Social, 1997

INE, Portugal Social, 1991/1995

収入と並んで社会保障支出に関しても金額としては同じくこの7年間で2.4倍の増加をみせている。特に支出額の対GNP比は17.4%から23.3%へという伸びが認められる。一方、全体的な支出増加の傾向を示しているなかで、1997年の失業手当及び住宅手当に関しては前年度に比しそれぞれ4.6%、6.6%の減額をみた。これに対し、社会的免除費用(Exclusão Social)は大きな伸びを記録して57.6%増、次いで保健(疾病・障害)12.6%増、家族手当3.5%増、年金(老齢・遺族)7.9%増であった。

また、「表36」にみられる通り、1人当たり社会保障費給付に関しては、1997年に418.6エスクードと1991年の212.9エスクードから約2倍の増加を示し、年平均では11.9%増をみせている。

1991年～97年の期間に関しては、ポルトガル人口の高齢化の進展が認識され、1997年には、若者(0～14歳のすべての若年人口)100人当たり89人の高齢者が対応する。一方、同年に、経済活動人口100人当たりには22人の高齢者が対応する。進展する高齢化は経済活動人口1人当たりの年金(老齢・遺族)平均支出額の増加を喚起する(1997年には31万2,000エスクード支出が記録され、前年度より1万9,000エスクード増であった)。この種の年金受給者数の増加は、年金システムの合理化の試み、特に社会保障に関する民間システム、例えば年金基金(Fundos de Pensões)に対する加入の増加等を通して益々図られることになる。